

いわせ和子 議会質問

一部抜粋構成



あなたに代わって質問します。暮らしの疑問、地域の困りごとをお知らせ下さい。

平成22年3月定例会

質問 災害時協力井戸について今迄の取組みと今後の対応は？

答弁（防災安全担当部長） 災害発生による断水時に、給水活動が実施されるまでの間、生活用水確保のため、1999年から始め、現在では208本を協力井戸として登録している。自主防災組織の方々に周知を図ると共に今後も井戸所有者の協力を求めて行く。

質問 現在、堺地区は大雨に向かい踏切を超えると8箇所、鶴川地区の三輪地域には1箇所しかない。登録地域のアンバランスを今後どう対応していくのか。

答弁（防災安全担当部長） 指定井戸の少ない地域は自主防災組織と連携して井戸の把握を行う。

平成22年6月定例会

質問 多摩都市モノレールの延伸についての現状と課題は。

答弁（市長） 多摩地域都市モノレール等建設促進協議会があり、周辺自治体と協議しながら都に要請活動をしている。課題は導入空間（モノレールは道路事業）の整備確保であると考えている。

質問 今後の取組みは。

答弁（市長） 延伸実現迄の間、既存バス路線の再構築など新交通システムの導入等の研究も平行してやっていきたい。

質問 延伸に向けてのPR活動多摩都市モノレール推進担当課を新たに設置してはどうか？

答弁（市長） 今後、整備について

検討すべき路線を関係機関に要請をする。担当は都市づくり部交通担当が行っている。

要望 スペインのバルセロナやドイツのベルリンの地下鉄のように自転車専用車両を設け自転車と一緒に乗れるモノレールの構想があってもよいのではないか

質問 市民ホールイベントの託児サービスについて

答弁（文化スポーツ振興部長） 町田市市民ホールを子育て中のお母様方に気軽に利用出来る施設としていきたい。

要望 これから建設予定の新庁舎の議場、鶴川駅前公共施設に親子室設置、また、玉川学園文化センター、忠生市民センター、町田市民ホール等の立替えの際にも託児室、親子室の設置を強く希望する。

平成22年9月定例会

質問 鶴川駅前公共施設（仮称）について施設の概要及び、今後の建設予定、進捗状況は

答弁（市長） 文化とスポーツの街づくりを通じて、町田を元気の街にしたい。ホール、図書館、市民活動、生涯学習等を促進する交流拠点、更に地域の新たな魅力とイメージを形成し、地域の街づくりを先導する施設を目指している。

質問 ホールの運営についてはどうか

答弁（鶴北副市長） 定期的に開催する一流の演奏家による音楽会、9万冊の蔵書、軽体操やヨガを楽しむ、地域団体の打合せや友人と憩える自由なスペースなど、豊かさゆとりを実感して頂ける空間を目指している。

質問 関連で、地域の要望、駐車場台数、交通渋滞回避、湧水や地下水についての配慮は。

答弁（鶴北副市長） 駐車場は20台、開館後は近隣駐車場との提携も検討、渋滞回避は関係部署との調整を図る。地下掘削はソイルミキシングウオール工法を採用する予定で地下水への影響に注意する。

質問 鶴川の片側通行の踏切り近くが新しい公共施設の駐車場出入口になっており、渋滞が避けられないと思うが、解消に向けた取組みは。

答弁（市民部長） 自動車の流入を増やさない事が重要であり、公共交通機関でのご利用を周知して行く。

要望 施設周辺をはじめ違法駐車が増え、渋滞することが大変懸念される。バスロータリー、タクシースタンド、乗降場所、自家用車の出入り口など、例えばどこかを一方通行にするなど、駅や施設利用者の利便性を充分に考慮し、鶴川駅周辺全体を見て、町田警察署や東京都とも協議すること。「心の豊かさ、ゆとりを実感出来る素晴らしい鶴川駅前公共施設の建設」を強く要望する。

質問 路上喫煙禁止区域を町田駅以外にも拡充を。

答弁（環境資源部長） 町田市内に10個の駅があるが、市内主要駅を対象に選定を行うべく現地調査を実施している。その後、地元町内会、商店街、ボイ捨て防止推進委員会での協議を行い、本年度中に選定する予定である。

質問 鶴川駅改札口を出て、左手のやすらぎ公園は、花壇が灰皿代わりとなり、花の芽ではなくフィルターの芽が沢山出ている。鶴川商店会の方々が定期的に清掃されているが、



頭を抱えている。鶴川駅も路上喫煙禁止区域を指定する予定は。

答弁（環境資源部長） 鶴川駅前公共施設もできるもので、指定の絶好のタイミングではないかと考える。

質問 鶴川駅改札口右側は緩やかな上り坂、自転車で勢い良く入って来るために、滑り転倒することもあり、歩行者にも危険である。自転車を降りて通行するとの注意喚起の表示が必要

答弁（環境資源部長） 町田市が管理している土地ではないが土地所有者に申し伝える。

質問 鶴川駅周辺におけるバリアフリーの環境整備を検討する際の考え方は。

答弁（環境資源部長） 鶴川駅の周辺のバリアフリー化は今年度から策定を始めた。高齢者や障害者にとっても移動しやすい街を目指す。

質問 病児病後児保育について推進を図るべきと考えるが現状と課題は。

答弁（子ども生活部長） 病児病後児保育については、看護師、保育士の常駐が必要。現在南地区、堺地区には受け入れ施設がなく、課題である。

質問 病児病後児保育について登録手続きをもっと簡潔に。

平成22年12月定例会

質問 生ゴミ堆肥化に取り組む市民に支援を。

答弁（環境資源部長） 生ゴミ処理機を利用したい市民に一定期間、貸出し、利用促進を図る案を検討中。

質問 生ゴミ処理機に必要なチップを手軽に入手出来ないか。

答弁（環境資源部長） チップの購入は、町田リサイクル公社と一緒に、手軽に購入出来るように検討中。その他、消耗品についても検討中。

質問 議会中継をラジオの電波を通じ放送し、開かれた議会を。また、災害時や緊急時に力を発揮する町田FM局の開局を。

答弁（広報広聴担当部長） 市民要望や費用対効果の検証など今後の研究課題と考える。

質問 町田市でも検討していた時期がある。その時の調査結果は。

答弁（政策経営部長） 2011年7月のテレビ放送のデジタル化後の電波に関する見直しについては、現在作業中ということで、明確な結論は頂いていない。

質問 今後の取組みは。

答弁（政策経営部長） 関係機関と連携を図りながら情報収集に今後も努めて行く。

質問 奄美豪雨で携帯電話等のインフラが遮断された時、あまみFMが災害発生から24時間体制で道路情報や安全確認を発信し、被災者から頼りにされたと聞いた。他の自治体でも情報伝達手段として活用している、評価出来るか。

答弁（防災安全部長） FM放送は、災害時に電気が止まってしまう状況下でも災害時には有効な情報伝達手段であると考えている。

質問 広報まちだに別紙（仮称）保健便りの作成をしてはどうか

答弁（いきいき健康部長） 保健所政令市に移行し、市民に健康に関する情報提供は重要。例えばメール配信などの活用も合わせて今後も検討していく。

